

書式 X 四肢麻痺手の機能評価表

カルテ No. _____ 患者名 _____ (男・女) 年令 (_____)

利き手 (右・左) _____ 患側 (右・左・両側) _____

診 断 _____ 発 症 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

検 査 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 初 診 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

検 者 名 _____ 手 術 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

I. 発症後経過期間 (_____ 年 _____ カ月) 発症前の利き手 (右, 左)

II. 麻痺の原因

A. 頸髄損傷 (骨傷なし・骨傷あり) その部位 (_____)

B. 非外傷性疾患 (_____)

III. 麻痺の程度と種類

A. 完全四肢麻痺

B. 不全四肢麻痺

C. 中心型脊損

D. Brown-Séguard

E. その他 (前方型, 後方型)

IV. 機能再建術前の機能残存筋と機能分類 (MMT 4 以上の筋力を有する筋を○で囲む)

機 能 残 存 筋		国際分類	Zancolli 分類
右 手	左 手		
biceps, brachialis	biceps, brachialis	0	1-A
brachioradialis	brachioradialis	1	1-B
ECRL	ECRL	2	2-A
ECRB	ECRB	3	2-B-I
PT	PT	4	2-B-II
FCR, triceps	FCR, triceps	5	2-B-III
EDM, EDC, ECU	EDM, EDC, ECU	6	3-A
EIP	EIP	7	3-B
EPL, FDP	EPL, FDP	7	4-A
FPL, FCU	FPL, FCU	8	4-B-I
FDS	FDS	8	4-B-II
thenar m., ADP	thenar m., ADP		
hypothenar m. interossei	hypothenar m. interossei		

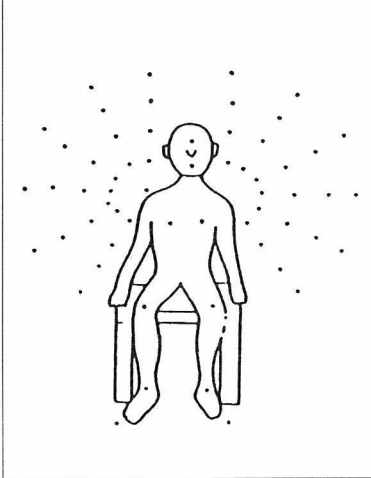
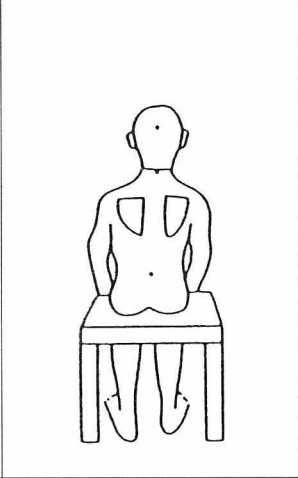
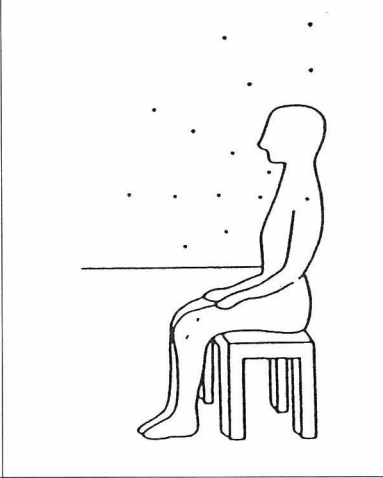
上肢の全筋の徒手筋力検査は共通書式 7 (56頁), 知覚検査は共通書式 8 (57, 58頁) に, 全関節の可動域測定 (自動, 他動) は共通書式 1, 2 (49, 50頁) を用いて記入する. 痙性のある筋は 0 ~ 5 評価の次に S を併記する.

カルテ No. _____ 患者名 _____

V. 関節拘縮の有無（有る場合該当するものを○で囲む）

		拘 縮 の 型			
		右		左	
肩 関 節		外 転	内 転	外 転	内 転
肘 関 節		屈 曲	伸 展	屈 曲	伸 展
橈 尺 関 節		回 外	回 内	回 外	回 内
手 関 節		背 屈	掌 屈	背 屈	掌 屈
手 指	MP 関 節	伸 展	屈 曲	伸 展	屈 曲
	PIP 関 節	伸 展	屈 曲	伸 展	屈 曲
	DIP 関 節	伸 展	屈 曲	伸 展	屈 曲
母 指	CM 関 節	内 転 橈 側 外 転 掌 側 外 転		内 転 橈 側 外 転 掌 側 外 転	
	MP 関 節	伸 展	屈 曲	伸 展	屈 曲
	IP 関 節	伸 展	屈 曲	伸 展	屈 曲

VI. reach一手の到達範囲（右：赤線，左：青線または黒線）

		
<p>空間での到達範囲：図中のポイントをめやすに，おおむねその範囲を曲線で記入 身体部位：図中のポイントに 可は○ 不可は×を記入</p>		

カルテ No. _____ 患者名 _____

Ⅶ. 把握機能

		右	左	測定器具名
握力 (kg 又は mmHg)				
指腹つまみ	母指－示指			
	母指－中指			
	母指－環指			
	母指－小指			
側側つまみ				

		右				左				
握り	ひっかけ握り	不可		1 kg 未満	1 kg 以上	不可		1 kg 未満	1 kg 以上	
	球状握り	不可		野球ボール	ソフトボール	不可		野球ボール	ソフトボール	
	筒状握り	不可	20mm	40mm	60mm	80mm	不可	20mm	40mm	60mm
つまみ	鉛筆	不可		可		不可		可		
	(2mm ペグ)	不可		可		不可		可		
	(10円玉)	不可		可		不可		可		

Ⅷ. 坐位・歩行能力

- A. 坐位能力 1. 背もたれがないと不能
 2. 背もたれなしで可能
 3. push up 可能
 4. ベッド↔車椅子 移動可能
- B. 歩行能力・自立歩行 (杖なし, 片杖, 両杖)
 1. 介助歩行, 部分車椅子
 2. 車椅子
 3. 電動車椅子
 4. 寝たきり

IX. ADL 評価 (残存筋からみた患者の機能分類とは無関係に、患者の現在の ADL 機能を記入する.)

Zancolli の各分類毎の最終目標となる ADL		0	1	2	3
1-A 車椅子動作	ブレーキ操作				
	目の高さの物をとる				
	足台の上下				
1-B	1-A の目標動作	1-A の項に記入			
	ナースコールを押す				
	フォーク、スプーンで食べる				
2-A	1-B の目標動作	1-B の項に記入			
	仰臥位から長座位になる				
	上着、ズボンのチャックの開閉				
	髪をとかす				
	コップ、湯飲みで飲む				
入浴動作	座位で食べる				
	足を洗う				
2-B-I	水洗トイレの操作				
	2-A の目標動作	2-A の項に記入			
	坂道登降 (傾斜15°)				
車椅子動作	不整地走行				
	車椅子の車への積降				
	2-B-I の目標動作	2-B-I の項に記入			
2-B-II	シャツのボタンをはずす				
	浴槽の出入り				
	洋式トイレ使用				
	尿取器装着				
2-B-III	2-B-II の目標動作	2-B-II の項に記入			
入浴動作	浴場より車椅子に移る				
	2-B-III の目標動作	2-B-III の項に記入			
3-A	手の爪を切る				
	装具をつけて立つ				
	歩行補助器による歩行				
	3-A の目標動作	3-A の項に記入			
3-B	シャツのボタンをかける				
	3-B の目標動作	3-B の項に記入			
4-A	仰臥位から起きベッド腰かけ				
	4-A の目標動作	4-A の項に記入			
4-B-I	箸で食べる				
	4-B-I の目標動作	4-B-I の項に記入			
4-B-II	4-B-I の目標動作	4-B-I の項に記入			
	洗腸ができる				

0: できない

1: なんとかできるが、時間がかかりすぎて実用性がない

2: 時間が普通よりかかるが、実用性がある

3: 正常または正常に近く楽にできる